

令和 6 年度 (2024年度)

学 校 評 価

笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい
夢に向かい 郷土を愛する葛小っ子

I 学校評価計画

II 学校自己評価

III 学校関係者評価

※ 参考資料

- ・ 具体的努力事項の指標結果
- ・ 保護者対象

水俣市立葛渡小学校

〒 8 6 7 - 0 1 7 3

熊本県水俣市葛渡 2 7 0 番地 2

T E L 0 9 6 6 - 6 7 - 1 0 0 3

F A X 0 9 6 6 - 6 7 - 1 0 6 6

E-mail ms07@athena.ocn.ne.jp

I 学校評価計画

1 学校評価の目的

- 自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
- 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進める。
- 学校評価の結果に応じて、支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図る。

2 学校評価のための年間計画

- 4月 学校教育目標にもとづき、具体的実践事項を作成する。
具体的実践事項をもとに担任が学級経営の具体的方策をたてる。
- 7月 児童及び教員による評価及び自己評価（1学期）を行う。
- 8月 1学期の結果を集計し、考察を行う。改善策を策定し、それを達成するための改善方策をたてる。
- 9月～12月 改善方策に基づき実践する。
- 12月 児童及び教員による評価及び自己評価（2学期）を行う。
評価結果を集計し、考察をする。それにもとづき改善方策を策定する。
- 1月～3月 改善方策にもとづき実践をする。
- 2月 児童及び教師による評価及び自己評価（3学期）を行う。
保護者によるアンケートを実施する。
学校関係者評価を開催し、自己評価の結果について話し合いを行い、次年度の学校経営の具体的実践事項の案を策定する。
- 3月 評価結果の公表・報告（教育委員会への報告）をする。

II 学校自己評価

1 学校教育目標及び学校経営方針

校訓： やさしく かしこく たくましく

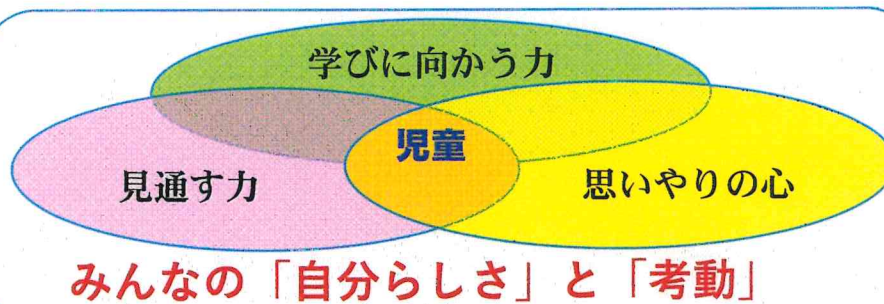
学校教育目標

笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい 夢に向かい 郷土を愛する葛小っ子

スローガン **みんなの「自分らしさ」と「考動」＝なりたい自分になるために**

こんな学校に	こんな子どもに	こんな教職員に
はずむ心のある学校 ○笑顔があふれ、活気に満ちた学校 ○互いに学び合い、育ち合う学校 ○保護者に支えられ、地域とともに協働する安心・安全な学校	学びの心を持つ子ども ○気持ちのよいあいさつができ、相手を思いやる心を持つ子ども ○郷土を愛し、夢（なりたい自分）に向かって「考動」する子ども ○健康・安全に気をつけて、やるべきことに粘り強く取り組む子ども	育ての心を持つ教職員 ○温かさ（受け入れる姿勢・言葉づかい） ○明るさ（笑顔・あいさつ・楽しむ心） ○マネジメント力（よさや変化への気付き、見通し、調整する力） ○研究心（真摯に学び続ける姿勢） ○郷土愛（地域を知り、協働による教育を進める意欲）

重点的に取り組む「育てたい資質・能力」



2 経営の柱と重点努力事項

柱	重点努力事項	柱	重点努力事項
スローガン	みんなの「自分らしさ」と「考動」＝なりたい自分になるために		教科体育の充実
豊かな心の育成	心に響く道徳の授業づくり	健やかな体の育成	健康教育の推進
	つながりのある学級づくり		安全・防災教育の充実
	生徒指導の充実		食に関する指導の充実
確かな学力の育成	学習意欲の向上	人権教育の推進	人権課題の解決
	管内統一事項に沿った葛渡小版授業づくり		全ての人の人権を守る実践行動
	家庭学習の充実	特別支援教育の充実	
	読書活動の充実	地域とともにある学校づくり	地域との連携協働によるよりよい教育の充実
			地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程づくり
		人権教育の推進	保護者との強い三礼関係づくり
			人権課題の解決
			全ての人の人権を守る実践行動
		不祥事防止・働き方改革の推進	

【豊かな心の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(○成果●課題及び改善策)
心に響く道徳の授業づくり	<上段>道徳科授業力向上手引書やぐまとの心、つなぐ〜熊本 の明日へ〜等の活用による道徳科の授業の充実 ①道徳の時間で学んだことを自分の生活の中で生かしている児童の割合 95% ②誰に対しても思いやりやりの心を持ち、相手の立場に立てる指導をしている教員の割合 100% <下段>重点目標【善悪の判断・自立、自由と責任、親切・思いやり、生命の尊さ】の設定による道徳性の育成 ③学習シート等を活用し、学習の足跡を残す教員の割合 100%	児童	①	A	○年度当初から、全学級で「道徳の足跡」コーナーを掲示し、学習した項目についてふり返ったり実生活に生かしたりできるようにした。 ○心のアンケートや教育相談等の中で、「いじめられた等」相談や回答した子どもが3名いたが、現在は解消している。日頃から担任による聞き取りや教育相談等で早期発見、解消に向けて取り組んでいる成果である。 ●「ぐまとの心」では、家庭での親子読みを行った。どのくらい深まったかは分からないので、年間計画の中で、きちんと位置付けて、保護者や地域などにさらに周知していく必要がある。
		教員	②		
		児童	97%	A	
つながりのある学級づくり	<上段>話し合い活動に基づいた実践活動の実施 ④みんなと協力して、仲良く生活できた児童の割合95% <下段>全ての人を大切にする学級経営 一人一人を大事にした学習環境づくり ⑤子ども同士をつなぎ、一人一人の居場所づくりを行っている教員の割合100%	児童	④	A	○みんなと協力して仲良く生活できた児童の割合が、上期も下期も100%であった。教員の子ども同士をつなぎ、一人一人の居場所づくりを行っている教員の割合も上期・下期とも100%であった。日頃から子どもたちの「自分らしさ」と「考動」を大切にし、一人一人の居場所づくりに取り組んできた成果である。 ○つながりのある学級や学校を目指して、「もやいタイム(児童を見つめる会)」の実施により、全職員での共通理解や共通実践を図ることができた。 ●児童のアンケートで年間を通して否定的な回答をした児童もおり、個別に対応しながら継続した取組が必要である。
		教員	⑤		
生徒指導の充実	○自己肯定感を高める声かけや活動の実施 ⑥学校生活は楽しいと感じている児童の割合95% ⑦あいさつを進んで行い、学校の決まりがきちんと守れた児童の割合95% ⑧生徒指導の3機能を意識して、児童の自己指導能力を高めている教員の割合100%	児童	⑦	A	○学校生活は楽しいと感じている児童の割合は、上期100%、下期97%とやや下降したが、個別に聞くなどして、理由などを把握し、全児童が学校生活は楽しいと感じることができるように取り組んでいる。 ○あいさつを進んで行い、学校の決まりがきちんと守れた児童の割合は、上期97%から下期は100%であった。 ●あいさつがきちんとできていると回答している児童が多いが、実態は声が小さかったり、顔を向けていないなどたりなどの児童が数名いる。全校集会や児童集会、委員会活動、声かけなど継続した取組が必要である。
		教員	⑩		
		児童	98.5%	A	
			⑧		

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価	評価	評価結果の考察（○成果●課題及び改善策）
学習意欲の向上	＜個別指導の充実＞ ①課題を課題のままにしない指導の充実に取組んでいる教員の割合100%	教員 ① 100 %	A	○熊本県学力・学習状況調査の結果においては、知識・技能に係る観点において、全学年で目標値を上回り、戸北・水俣学力向上対策宣言書の目標を達成した。また、6年生の国語を除いた目標値においても全学年で上回った。6年生の国語も僅か0.7%下回り、目標値と同程度であった。 ○複式学級、少人数での話し合いの活性化に向けて、学習リーダーの育成を進めたことで、自分たちで話し合い活動を進めることができるようになってきた。 ○「友だちと教え合うことができる」「話し合いを深める」とき、自分の意見を発言できる「話し合いを通じて自分の考えを深めることができたか」は1人1人必ずしも97%であった。苦手に思っている児童もいるので、継続した取組が必要である。 ●学力の定着には個人差・学年差が見られる。個に応じた指導を徹底し、課題を課題のままにしない取組を継続していく。 ●互いに発表し合い聴き合う関係づくりの徹底、学習問題の基礎・基本的なケア・ミスが多い児童に対しての基礎学力の定着については、取組を強化していく必要がある。
	管内統一事項に沿った葛渡小版授業づくり	93.8% 児童 ② 97.0 % 教員 ⑤ 100 % ③ 97.0 % ③ 100 %	A	
家庭学習の充実	＜上段＞家庭学習習慣の定着 ⑥家庭学習を進んでがんばる児童の割合95% ＜下段＞ ○指導と評価の一体化 ⑦「家庭学習の手引き」や「POINT5」を生かし、内容の方法の指導助言、評価を行っている教員の割合100%	教員 ⑦ 100 % 児童 ⑥ 96.5 %	B	
読書活動の充実	＜本に親しむ児童の育成＞ ⑧一月に本を2冊以上読む児童の割合95% ⑨学校図書館の活用等、読書推進に取り組んでいる教員の割合100%	教員 ⑨ 100 % 児童 ⑧ 100 %	A	○一月に本を2冊以上読む児童の割合は上期93%だったのが、下期100%に上昇した。 ○学校図書館の活用等、読書推進に取り組んでいる教員の割合は、上期、下期両方とも100%であった。 ○社会や国語の物語、総合的な学習の時間などで、学校図書館の活用が多く見られた。

【健やかな体の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察 (成果●課題及び改善策)
教科体育の充実	運動する楽しさを実感し、体力の向上を図る体育指導の充実 ①外で元気に遊んだり、運動を頑張っている児童の割合95% ②活動の目標を明確にして教科体育をやっている教員の割合100%	児童	教員	B	○教科体育の充実においては、活動の目標を明確にした授業が行われている。 ○業間の時間に「のびのびタイム」を設けたり、なわとび大会を開催したり学校総体で「なわとび」に取り組み、縄跳びの技術向上と持久力の向上が見られた。 ●体力向上に向けて、年間を通して授業開始後のランニングを行ってきた。運動の特性と体力面における課題をつなげた活動を意識して組み合わせるなどの工夫や、外遊びをしたがらない児童への対策が今後の課題である。
		① 93 %	② 100 %		
健康教育の推進	＜上段＞基本的生活習慣の育成 ③早寝早起きや手洗い・歯みがきできている児童の割合95% ＜下段＞課題解消に向けた保健指導の充実 ④健康診断の課題の解消に向けて指導、啓発を行っている教員の割合100%	児童	教員	B A	○「さわやかチェック」等の取組により、3点固定「就寝・学習開始・起床時刻」の推進を行ってきた。取組の中で「認める」「ほめる」「場面をつくり、児童の意欲を高めたこと」は良かった。 ○緑東中学校区で、年2回3校合同学校保健会を開き、三校の連携のもと保護者とも健康問題を共有できた。 ●児童の健康に関する意識向上を目指して、養護教諭を中心に取組を進めているが、児童が「自分ごと」としてとらえて実践していけるよう、全職員で目的を共有して進める必要がある。
		③ 93 %	④ 100 %		
安全・防災教育の充実	＜上段＞安全教育の充実と徹底 ⑤安全に注意し、登校・生活ができている児童の割合95% ＜下段＞学校内外の事故防止、防犯体制の整備 ⑥危険予測を含めた安全指導を行っている教員の割合100%	児童	教員	A A	○登下校に関する毎日の安全指導及び一斉下校時における全体指導をとおして、安全に関する注意喚起を行った。登下校や地区での事故や大きなケガの報告はなかった。 ○三校で連携して大雨を想定した引き取り訓練を実施できた。今回の課題をもとに、より実践的な訓練となるようにしていきたい。
		⑤ 100 %	⑥ 100 %		
食に関する指導の充実	＜上段＞教科等の指導と食に関する指導の関連を図る 系統的な指導の実施 ⑦朝食を、毎日きちんと食べる児童の割合95% ＜下段＞給食時間の指導の徹底 ⑧給食において、適量を時間内に食べられるように指導している教員の割合100%	児童	教員	A A	○毎週火曜日の「さわやかチェック」アンケートから、朝食はほとんどの児童が摂取できている。家庭との連携が重要なところでもあるため、信頼関係を築き、連携を取り合っていくことが大切であるとともに、朝食の内容にもふれ、充実を図りたい。 ○給食において、時間内に適量を食べられるような指導はできている。食物アレルギー一の児童が1名いる。全職員で共通理解し、適切に対応できるようにした。 ●食に関する指導は家庭での食に関する意識が大きく影響するため、家庭との連携を更に進めていきたい。
		⑦ 100 %	⑧ 100 %		

【3本柱以外の取組】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察 (○成果●課題及び改善策)
＜人権教育の推進＞ 人権課題の解決及び全ての人の人権を守る実践行動 ○第三次とりまとめや環境学習、水俣病学習の実施と人権教育に関する研修の充実及び啓発等の推進 ①人権教育年間計画に沿って確実に授業が行えた教員の割合100%		教員 ①	90 %	B	○校内研修において、県から発行されている人権教育推進のための資料を活用して「同和問題」をはじめ、「水俣病をめぐる人権」、「ハンセン病回復者等の人権」、「教育実践の交流」を中心に計画的に研修を進めた。そのことで、教職員の資質向上につながり、指導方法の工夫改善につながった。 ●学級担任は、人権教育年間計画に沿って確実に授業を行った。担任外の職員も授業以外で、より人権意識を持って取り組んでいくことが課題である。
		教員 ②	100 %	A	○児童理解のために行う「もやいタイム」は、気になる児童への組織対応において、有効であった。 ●児童が目に付く範囲において、ユニバーサルデザインに基づいた、気を散らさない掲示や視覚的支援の工夫をしていきたい。
＜特別支援教育の充実＞ ○子どもの可能性を最大限に伸ばすための授業づくりや指導の工夫改善 ②ユニバーサルデザインに基づいたわかりやすい授業づくりと個や特性に応じた指導の工夫を行う教員の割合100%	＜地域とともにある学校づくり＞ 地域との連携協働によるよりよい教育の充実 ○豊かな体験活動の場の設定と地域学校協働活動の活用 ③地域等との連携(人材等の活用)を図った教員の割合100% 地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程 ④連携を深めるための積極的な情報公開 ○「学校だより」「学級通信」「学校ホームページ」等を定期的に発行・更新できた教員の割合100% 保護者との強い信頼関係づくり ○傾聴や協働の姿勢 ⑥保護者からの相談があった際、傾聴と共働を意識しながら話し合いができた教員の割合100%	教員 ③	86 %	B	○本年度から葛渡小・緑東中学校運営協議会をスタートし、年3回運営協議会を開催した。また、地域・保護者・有識者・学校・教育委員会の5者で、課題等の共通理解を図り、課題解決の為の意見交換会を行った。 ○地域学校協働活動の一環として、田植え、サラ玉植え、水俣ハイヤ節指導、地域伝統芸能継承活動、交差点の花植え等に取り組んだ。また、運動会や学習発表会に地域の人々を招待し、地域とともにある学校づくりを進めた。 ○保護者との強い信頼関係づくりにおいては、傾聴の姿勢、対話重視で、少人数ならではの利点を生かしてきた。今後、一方通行ではなく、双方向型の対話を図っていく。
		教員 ④	100 %		
		教員 ⑤	100 %		
＜不祥事防止・働き方改革の推進＞ ○不祥事防止に向けた啓発と申し合わせ事項の遵守 ⑦ボトムアップ型研修の実施や「不祥事防止だより」の発行により、自身の言動を振り返れる教員の割合100% ○業務の割り振りの適正化 ⑧超過勤務時間、月45時間以内で収める教員の割合100%		教員 ⑦	100 %	B	○職員会議や校内研修の中で不祥事防止研修を設定し、職員が輪番で不祥事防止研修の担当になり、主体的に取り組んだ。また、交通取締情報を職員室黒板に掲示したり、適時管理職から不祥事についての講話をしたりして、職員の意識の向上と未然防止に努めた。 ○45時間を超えそうな職員には、随時声かけを行ったり、チームで分担したりするなど超過勤務時間を減らすことができた。
		教員 ⑧	80.5 %		

Ⅲ 学校関係者評価

＜学校関係者評価委員(緑東中・葛渡小学校運営協議会)＞

種 別	氏 名	種 別	氏 名
学校の運営に資する活動を行うもの	桑原 一知	学校の運営に資する活動を行うもの	本井 三千年
学識経験者	萩嶺 善信	学識経験者	元山 範子
学識経験者	田尻 則幸	保護者(葛渡小)	淵上 久
保護者(緑東中)	古里 孝成	保護者(久木野小)	徳富 由香
校長(葛渡小)	森 安広	校長(緑東中)	荒川 国博
教頭(葛渡小)	平田 八宏	教頭(緑東中)	坂本 佳子
関係行政機関の職員	草野 裕美子		

- (1) 学校関係者評価委員による評価
ア 具体的実践事項の評価結果は適切か。

【学校の自己評価について】

(%)

評価項目	評価基準及び妥当性		
	高すぎる	妥当である	低すぎる
A：スローガン	10	80	10
B：豊かな心の育成	10	80	10
C：確かな学力の育成	10	80	10
D：健やかな体の育成	10	90	
E：3本柱以外の取組		90	10

(2) 学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）による意見等

具体的実践事項	学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）による意見等
スローガン	□目標は高く掲げているので、がんばって（生徒・先生）いる事が良いと思いました。 □校長先生の思いを受けた「なりたい自分」などの掲示物がたくさん見られました。子どもたちにまで伝わってきていると思います。継続されて下さい。 □実態に合った、みんなの「自分らしさ」という言葉がとても良いと思いました。 □「考動」の言葉よい。家庭でもこの「考動」で行ってほしい。
豊かな心の育成	□どの項目も高い結果です。各教室の道德のあしあとがしっかり残されていたので印象的でした。 □学力を支える土台として、校種を超えた取組はとても効果が高いと思いました。 □子ども同士で、問題に取り組んでいたのが感心しました。
確かな学力の育成	□みんな心の状態はわからないので、言葉や健康などのコミュニケーションで育成しないといけないと思っています。大変ですがみなさん頑張ってください（一人じゃ大変なので複数人でいきましょう） □どの項目も高い評価です。A評価でよいのではないですか。家庭学習「POINT5」で、家庭からのサインまでしっかり行えていることが参考になります。 □少人数ならではの主体的な学びを確立し、複式がない学校にも広げていただければと思います。 □小中の先生交流授業をお願いします。（見学）
健やかな心身の育成	□健康な体が一番なので成長によって活動をしていけばと思います。 □どの評価も高い評価です。A評価でよいのではないですか。基本的な生活習慣は「早寝・早起き・朝ごはん」が基本だと思います。睡眠時間の確保に向けた取り組みを、連携してやっていきましょう。 □学力向上に向けて、水俣市全体の課題（生活リズム・学習時間の確保）です。
3本柱以外の取組	□評価の低い項目の改善はなかなか難しいところがあると思います。何をするのかを明確にしたり、より細かい数値目標を立てることが改善につながると考えます。 □改めて、人権教育の大切さを感じました。学校規模に関わらず、家庭との連携は、難しいと思いました。

Ⅳ 次年度への指向

(1) 学校関係者評価を受けて

【学校の自己評価について】

A：スローガン、B：豊かな心の育成 C：確かな学力の育成、D：健やかな心身の育成、
E：3本柱以外の取組において、8割の方が「妥当である」という意見であった。

【今後の課題の改善策について】

A：スローガンについて

○スローガン『みんなの「自分らしさ」と「考動」＝「なりたい自分」になるために』については児童も教員も意識付けできているので、少人数であることの利点を活用して、児童一人一人と対話を通して「なりたい自分」になるためのビジョンを明確に持たせるように継続していく。

○キャリア教育の年間計画を改善しながら、キャリアパスポートの効果的な活用を図っていく。

B：豊かな心の育成について

○挨拶については1学期よりも3学期は大きな声でできるようになってきたが、まだ個人差がある。また、家庭や地域の方への積極的な挨拶が課題があると思われる。全校集会や委員会活動を通して継続した児童への啓発と教師自身が率先垂範して挨拶をしていきたい。

○全教育活動の一人一人の活躍の場を設定し、児童一人一人の自己有用感を高めていきたい。

○全職員がアンテナを高くして、児童のいじめや悩み等に対して早期発見と、早期解決に努め、全職員で共通理解のうえ、チーム葛渡として進めていきたい。

C：確かな学力の育成

○全国学力・学習状況調査や市・県学力・学習状況調査の小問分析や課題のあった問題への取組、芦北・水俣学力向上対策協議会提言書に基づく取組により、6年生の国語を除いた全学年で目標値を上回った。「家庭学習の手引き」「学びと教える基礎基本」「聞き耳モード」など学校総体での共通理解・共通実践の成果だと思われるので、次年度も継続していく。また、学校総体で「リーダー学習」を次年度も継続して取り組み、事後研究の改善など校内研修を通して、「授業力の向上」を進めていきたい。

○一月に本を2冊以上読む児童の割合は、100%であった。次年度は児童が興味を持って読書を行う習慣づくりとともに、委員会活動などを活用し読書量と質の向上に努めていきたい。併せて、図書室の一層の環境整備にあたりたい。

D：健やかな心身の向上

○体力向上に向けて、体育の時間の3分間走や縄跳びの推進、のびのびタイム（なわとび）等の取組を行い成果を挙げ、次年度も継続していきたい。

○3点固定運動については、緑東中学校校区の三校と連携して、家庭と協力しながら取組を継続していく。

E：3本柱以外の取組

○校内研修の中で、部落差別や水俣病など様々な人権問題について取り組んだ。また人権教育年間計画に沿って、一人一人の児童の人権意識を高めてきた。次年度もさらに深めることができるように進めていきたい。

○田植えや地域伝統芸能継承活動など地域学校協働活動に取り組んだ。葛渡小・緑東中学校運営協議会も本年度からスタートした。「地域とともにある学校」づくりをすすめていくために地域・学校・保護者・児童・生徒・行政の5者がさらなる連携深め、次年度取り組んでいきたい。

※参考資料

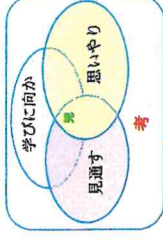
- 具体的努力事項の指標結果
- 保護者対象

【資料 1】 5 令和 6 年度の努力目標と具体的努力事項

学校教育目標：笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい 夢に向かい 郷土を愛する葛小っ子

重点努力事項・具体的実践項目

★育てたい資質・能力



柱	重点努力事項	具体的実践事項	指標	年間評価	
				数値目標	上期 下期
スローガン	みんなの「自分らしさ」と「考動」＝「なりた い自分に」なるために	全ての教育活動の中での基盤。(全ての児童を思いを大切に)	「夢(なりた自分)」に向かって考動できた児童の割合 児童の「夢(なりた自分)」を把握し、考動させている教員の割合	95% 100%	100.0% 86.0%
		重点目標(B7, D19, A1)の設定による道徳的実践力の育成	道徳の時間で学んだことを自分の生活の中で生かしている児童の割合	95%	97.0%
		心に響く道徳の授業づくり	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立てる指導をしている教員の割合	100%	100.0%
		くまもの心、つなぐ～熊本の明日へ～等の活用	学習シート等を活用し、学習の足跡を残す教員の割合	100%	100.0%
豊かな心の育成	つながりのある学級づくり	話し合い活動に基づいた実践活動の実施	みんなと協力して、仲良く生活できた児童の割合	95%	100.0%
		全ての人を大切にする学級経営	子ども同士をつなぎ、一人一人の居場所づくりを行っている教員の割合	100%	100.0%
		自己肯定感を高める声かけや活動の実施	学校生活は楽しいと感じている児童の割合	95%	100.0%
		生徒指導の充実	あいさつを進んで行い、学校の決まりがきちんと守れた児童の割合	95%	97.0%
確かな学力の育成	管内統一事項に沿った葛渡小版授業づくり	個別指導の充実	生徒指導の3機能を意識して、児童の自己指導能力を高めている教員の割合	100%	100.0%
		主体的な学びと学び合いにつながる授業改善	課題を課題のままにしない指導の充実に取り組んでいる教員の割合	100%	100.0%
		児童の考えを深めるための授業づくり	友だちと教え合うことができる児童の割合	95%	100.0%
		家庭学習習慣の定着	話し合いをするとき、自分の意見を発言できる児童の割合	95%	97.0%
健康や かな 体の 育 成	特別支援教育の充実	指導と評価の一体化	話し合いを通じて自分の考えを深めることができた児童の割合	95%	97.0%
		本に親しむ児童の育成	学び合いを深める発問やまとめ・ふり返りの工夫を行っている教員の割合	100%	100.0%
		運動する楽しさを実感し体力の向上を図る体育指導の充 実	家庭学習を進んでがんばる児童の割合	95%	100.0%
		基本的な生活習慣の育成	「家庭学習の手引き」や「POINT5」を生かし、内容や方法の指導助言、評価を行っている教員の割合	100%	100.0%
健康 教育 の 推 進	安全・防災教育の充実	課題解消に向けた保健指導の充実	一月に本を2冊以上読む児童の割合	95%	100.0%
		安全教育の充実と徹底	学校図書館の活用等、読書推進に取り組んでいる教員の割合	100%	100.0%
		学校内外の事故防止、防犯体制の整備	外で元気に遊んだり、運動を頑張っている児童の割合	95%	93.0%
		教科等の指導と食に関する指導の関連を図る系統的な指導の実施	活動の目標を明確にして教科体育をやっている教員の割合	100%	100.0%
食に 関 する 指 導 の 充 実	特別支援教育の充実	給食時間の指導の徹底	健康診断の課題の解消に向けて指導・啓発を行っている教員の割合	95%	97.0%
		子どもの可能性を最大限に伸ばすための授業づくりや指導の工夫改善	安全に注意し、登校・生活ができている児童の割合	100%	100.0%
		第三次とりまとめや環境学習・水俣病学習の実施	危険予測を含めた安全指導を行っている教員の割合	95%	100.0%
		人権教育に関する研修の充実と啓発等の推進	朝食を、毎日きちんと食べる児童の割合	100%	100.0%
人権 教育 の 推 進	全ての人の人権を守る実践行動	豊かな体験活動の場の設定と学校応援団の活用	給食において、適量を時間内に食べられるように指導している教員の割合	100%	100.0%
		地域との連携協働によるよりよい教育の充実	ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりと個や特性に応じた指導の工夫を行う教員の割合	100%	100.0%
		地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程	人権教育年間計画に沿って確実に授業が行えた教員の割合	100%	75.0%
		保護者との強い信頼関係づくり	地域等との連携(人材等の活用)を図った教員の割合	100%	40.0%
不 祥 事 防 止 ・ 働 き 方 改 革 の 推 進	不祥事防止に向けた啓発と申し合わせ事項の遵守	連絡を深めるための積極的な情報公開	「学校だより」「学校通信」等を定期的に発行できた教員の割合	100%	86.0%
		傾聴や共働の姿勢	保護者との相談の際、傾聴と共働を意識しながら話し合いができた教員の割合	100%	100.0%
		業務の割り振りの適正化	ボトムアップ型研修の実施や「不祥事だより」の発行等により、自身の言動を振り返られる教員の割合	100%	100.0%
		※太字は本年度重点事項	超過勤務、月4・5時間以内で収める教員の割合	100%	73.0%

R6学校評価アンケート【保護者用】の結果①

①学校は、家庭に学校の教育方針や教育目標をわかりやすく示していると思いますか。



②お子さんは、充実した学校生活を送っていると思いますか。



③先生方は、わかる授業づくりに務めていると思いますか。



④お子さんは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



⑤学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にする心の教育の充実に努めていると思いますか。



⑥お子さんは、あいさつがきちんとできていると思いますか。



⑦学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。



⑧お子さんは、友だちと仲よくしていると思いますか。



⑨学校では、運動会や学習発表会など行事が工夫されていると思いますか。



⑩先生方は、子どものことをよく理解していると思いますか。



⑪お子さんは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



0% 50% 100%

■ そう思う ■ どちらかというと思う ■ どちらかというと思わない ■ 思わない

R6学校評価アンケート【保護者用】の結果②

⑫学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



⑬学校は、食事や睡眠など健康に対する意識を高めようとしていると思いますか。



⑭学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



⑮学校の施設や整備は、安全で整備、管理されていると思いますか。



⑯学校からのおたよりやホームページ等で、学校の情報が十分に発信されていると思いますか



⑰学校が公開している教育活動（行事等）は、参加しやすいと思いますか。



⑱先生方は、保護者とよく連携をとっていると思いますか。



⑲先生方は、一人一人に温かく、また公平に接していると思いますか。



⑳先生方は、連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。



0% 50% 100%

■ そう思う ■ どちらかというと思う ■ どちらかというと思わない ■ 思わない